

Project
Operation
Sight for
All

POSA 事業報告

No.18

●平成26年度



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



POSA 目 次



理事長より

『人生はこれからを夢見ることさ』

POSA理事長 医療法人 輝秀会 理事長 倉富 彰秀 …… P1

副理事長より

『POSAアイキャンプでの日常』

POSA副理事長 医療法人 菊池眼科 理事長 井上 望 …… P2

国際エンゼル協会より

『POSAアイキャンプ』

特定非営利法人 国際エンゼル協会 事務局長 前田 泰宏 …… P3

『Enlighten People through Eye Camp (アイキャンプを通じて人々に光を)』

国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ …… P4

ライオンズクラブより

『POSAのアイキャンプ活動とライオンズクラブ国際協会』

神埼ライオンズクラブ会長 檜本 純一 …… P5

アイキャンプ参加者より

『アイキャンプ2013』

林眼科病院 瀧本 峰洋 …… P6

『アイキャンプ2013に参加して』

てるや眼科クリニック 視能訓練士 照屋 邦子 …… P7

『アイキャンプに参加して』

くまもと森都総合病院 視能訓練士 吉田 幸代 …… P8

『アイキャンプに参加して』

沖縄県立大平特別支援学校 教員 喜納 鉄也 …… P10

『アイキャンプに参加して』

くらとみ眼科医院 看護師 田中 清隆 …… P12

『成長』

崇城大学 薬学部 3年 (※2013年12月時点での学年) 江崎 円香 …… P13

『アイキャンプに参加して』 福岡県立大学看護学部看護学科4年 (※2013年12月時点での学年)

富永 琴里 …… P14

『バングラデシュアイキャンプの思い出』 久留米大学医学部医学科 1年 (※2013年12月時点での学年)

照屋 快斗 …… P16

『私の成長』

福岡大学付属若葉高等学校 2年 (※2013年12月時点での学年) 小柳 博那 …… P18

『アイキャンプ2013』

沖縄尚学高等学校 1年 (※2013年12月時点での学年) 照屋 秀斗 …… P19

平成25年度事業報告書及び平成26年度事業計画

平成25年度・平成26年度事業報告書 …… P20

御支援頂いた方の一覧表 …… P21

POSA理事・監事名簿・POSA会員・POSA規約(一部抜粋)・入会のお願い …… P22

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『人生はこれからを夢見ることさ』 POSA理事長 医療法人 輝秀会 理事長 倉富 彰秀



2013年12月19日より26日まで約1週間の日程でバン
グラデシュ・コナバリ村にて眼科医療援助を行った。11
月と12月に計912名のスクリーニングを行いその中で約
2割の患者様を手術対象とした。手術予定日に来所され
た患者様計103名に対して白内障手術を施行した。今回
も全員に眼内レンズ挿入術を施行した。参加者は医師・
看護師・視能訓練士・一般参加者合わせて14名であっ
た。

神埼ライオンズクラブや国際ライオンズクラブからの
LCIF寄付金(1万ドル)をはじめ、個人の皆様方からの
寄付金、会員の方々からの会費、また参加者の方々は自
費にて参加されたりと、多くの方々の善意によってこの活
動が成り立っていることを今回も感じる事ができた。現
地受け入れ団体であるコナバリ村のエンゼル協会を統
括している日本エンゼル協会の代表者である東村様や
現地での実務をとり行っておられる前田様、浅野様、ま
た現地エンゼル協会の代表者であるバリ様、さらにはエ

ンゼル協会のスタッフ、またエンゼル協会に入所している
約30名の6歳から15歳までの孤児の子ども達、これらの
エンゼル協会の活動を支えておられる多数の国際エン
ゼル協会会員の方々など、数多くの人々によってこの活
動が支えられていることを毎年実感し、ありがたいと思
う。

さて、このタイトルである。2003年沖縄宜野湾ライブ以
来10年ぶりに参加した昨年夏神戸のサザンオールスタ
ーズライブ。そこでこのフレーズを聞いたとき、はっとした。
ライブ会場でのみ歌われる、いまだタイトルのないフレー
ズ。心がときめかない日々を過ごしていたのではないだろ
うかとふと考えてしまった。そのワンフレーズを紹介して、
毎年応援して下さる方々への感謝の気持ちとしたい。

『 あの日から何度目の夏が来ただろう
出会ったり別れたりくりかえし
うつくしい思い出も大切だけど
人生はこれからを夢見ることさ 』



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『POSAアイキャンプでの日常』 POSA副理事長 医療法人 菊池眼科 理事長 井上 望



私は毎年アイキャンプ(失明予防活動)に参加しているため、毎回この報告書に寄稿しています。今回はアイキャンプでは例年どんな事を行っているのかをご報告致します。

2013年は12月20日～25日にかけてバングラデシュでPOSAアイキャンプが行われました。日本からバングラデシュへ行くには直行便が無いいため、バンコクでの乗り換えを要します。私は例年往路は羽田発バンコク行き深夜便を使っていますが、羽田空港の国際化に伴い国内各地からの利便性が以前よりかなり良くなりました。19日夜に熊本から羽田に移動、20日未明に羽田発のタイ航空に搭乗、早朝バンコク到着しました。バンコクで19日昼福岡発の皆と合流して一路ダッカへ向かいました。ダッカ空港には現地時間の13時到着、そこから車に揺られながら約60分でコナバリにある国際エンゼル協会の施設に着きました。

国際エンゼル協会は兵庫県伊丹市に事務所を置き、途上国への開発協力に取り組む1982年設立のNPO法人です。POSAはアイキャンプにおいてエンゼル協会のバングラデシュ施設を使わせていただいています。エンゼル協会の皆さんには毎日の食事、宿泊場所の提供だけではなく、手術における患者さんの術前診察や物品購入等、多岐にわたってお世話になっています。

さて、着いたその日から全参加者で翌日の手術準備です。手術室の機材消毒、手術機械と消耗品のチェック、患者さんの術前検査と診察等、旅の疲れを感じる間も無い忙しさです。翌2日目からいよいよ手術が始まります。手術

室では私たち日本人医師と毎年ボランティアで参加してくださるバングラデシュ人医師のミジャン先生との2組が2列の手術台で行います。手術室の内外でもPOSA参加者が大活躍です。患者さんの誘導、術前の点眼処置、手術室外回りでの介助等、初参加の方も最初は戸惑いがありますが、時間とともに慣れてきます。1日で30名～40名の手術を行います、全員の手術が終わるのは夜間になる事もあります。

手術翌日の診察で患者さんの眼帯を取った時、控え目ながら患者さん達は眼が見える喜びを表現してくれます。言葉は通じませんが感謝の気持ちは私たちにも十分に分かります。眼が見えなかった手術前とは明らかに違う、しっかりと足取りを見るのは私達にとってもこの上ない喜びです。

今年も無事にアイキャンプを終える事が出来ました。毎年参加してくださる瀧本先生、ORTの吉田さん、照屋さんご家族と喜納さん、江崎さん、小柳さん、富永さん、田中さん、SAPLUSの柴田さん、八木さん、本当に有難うございました。そしてPOSA会員やライオンズクラブ、その他大勢の募金して下さいている方々全ての人にも感謝です。POSAはいつも多くの方々に支えられて成り立っています。

皆さんも、もし参加して頂ければおもしろいと思いますので、一度バングラデシュで新しい体験をしてみませんか？何と言ってもゲストハウスのカレーは絶品ですよ。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『POSAアイキャンプ』

国際エンゼル協会 バングラデシュ所長
前田 泰宏



2013年12月例年通りPOSAのアイキャンプが始まりました。今年は2014年早々バングラデシュの国会議員選挙も控え、治安も不安定でアイキャンプの実施もどうかという状況でした。そんな中POSAの皆さんの必ず行いやすとの強い意志が反映してか103名の白内障の患者さ

んに無事に手術が行われ、患者の皆さん元気に田舎に帰っていかれました。現地のミジヤン眼科医師も大変忙しい中、毎年POSAのアイキャンプを優先してお手伝いして下さっています。皆さんの善意の心がまた今年も花開いたと感謝の気持ちでいっぱいです。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『Enlighten People through Eye Camp (アイキャンプを通じて人々に光を)』

国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者

アジズル・バリ



POSAのおかげで今年も無事にEye Campを行うことができました。

ここ数年10月の初めごろから、いつ日本人眼科医師がきますかと尋ねる人が増えてきました。今回GAZIPUR県の5カ所の地域で11月9日から12月7日まで白内障検診を行いました。男性349人、女性518人、子ども45人の912人の農村の人たちが検診を受けに来られました。その中から男性73人、女性64人の137人が白内障手術を受けられることになりました。

12月初めごろからバングラデシュの総選挙が2014年1月に行われることになり、政治がいろいろ混乱し、ストライキも増え、政情不安になりました。その影響で今年のEye Campは出来ないのではという不安が私の中で生まれてきました。しかし、ストライキ中であるにも関わらず

日本から皆さんに来ていただくことができ、男性58人、女性45人総計103人の白内障患者さんに手術ができました。

人口が多いこの国ではまだまだ眼科疾患で困っている人たちがたくさんいます。バングラデシュにある※イスラミア病院では2013年に389,142人の患者さんが目の病気の治療を受けました。そして白内障手術を受けられたのはわずか12,277人の患者さんだけでした。

2013年もPOSAや神埼ライオンズクラブの皆さんの善意で第14回目のEye Campができました。そしてたくさんの人たちが目に光を取り戻し、喜んでいます。

本当にありがとうございました。心から感謝しております。

※バングラデシュにある最も大きな眼科専門病院



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『POSAのアイキャンプ活動とライオンズクラブ国際協会』

神埼ライオンズクラブ 会長

檜本 純一



POSAの2013年度バングラデシュアイキャンプが無事に達成できたことを喜んでいきます。

現在バングラデシュで実施されているアイキャンプはPOSAの理念である「すべての人のための視覚手術計画に基づいて、分かち合いの精神で、最善の治療を、社会経済的に恵まれない人々に白内障のための失明を防止する」ため国際的な社会奉仕活動であるとともに、「失明とたたかうライオンズ」の実践でもあります。

一昨年でしたが、倉富医師のお誘いを受けて、福岡で開催された眼科医学会後の懇親会に同席させていただき、国民皆保険の日本では想像しなかった発展途上国の医療状況とアイキャンプを実施している眼科医療奉仕団体が多数あることを知り驚きました。

ライオンズクラブ国際協会では、三献活動と称して献血、献眼、献腎を全世界で展開していますが、献眼については、1925年のライオンズクラブ国際大会でヘレン・ケラーが目の不自由な人々への援助を呼び掛けて以来のこととされています。

神埼ライオンズクラブでも国際協会の方針に従って、三献活動に取り組んできましたが、地域又は広域の社会

奉仕活動しか念頭になかった私どもには、倉富ライオンからアイキャンプの活動を聞くまでは国際的な海外奉仕活動との関わりは想定外でした。POSAの活動に賛同したライオンが随時任意に協力するようになりました。

その後、ライオンズクラブ会員が主催し、協力する国際医療奉仕活動はライオンズクラブ国際協会の方針に合致するものと考えてに至りました。スポンサーが神埼ライオンズクラブであり、ホストクラブ(当初ニューバナリーライオンズクラブ、現在はセントラルライオンズクラブ)の協力体制が評価され、ライオンズ国際財団(LCIF)から交付金をいただくようになり現在に至っています。

神埼ライオンズクラブ45周年記念事業2013年(田原英征会長)では、バングラデシュの医療施設の充実のため寄付させていただきました。

POSAの活動が継続され、「視力ファースト・失明とたたかうライオンズ」を顕現していただくことを願っています。

理事長である倉富ライオンと副理事長である井上医師をはじめとして、アイキャンプ活動に参加する医療支援スタッフのご健勝とご活躍を願っています。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプ 2013』

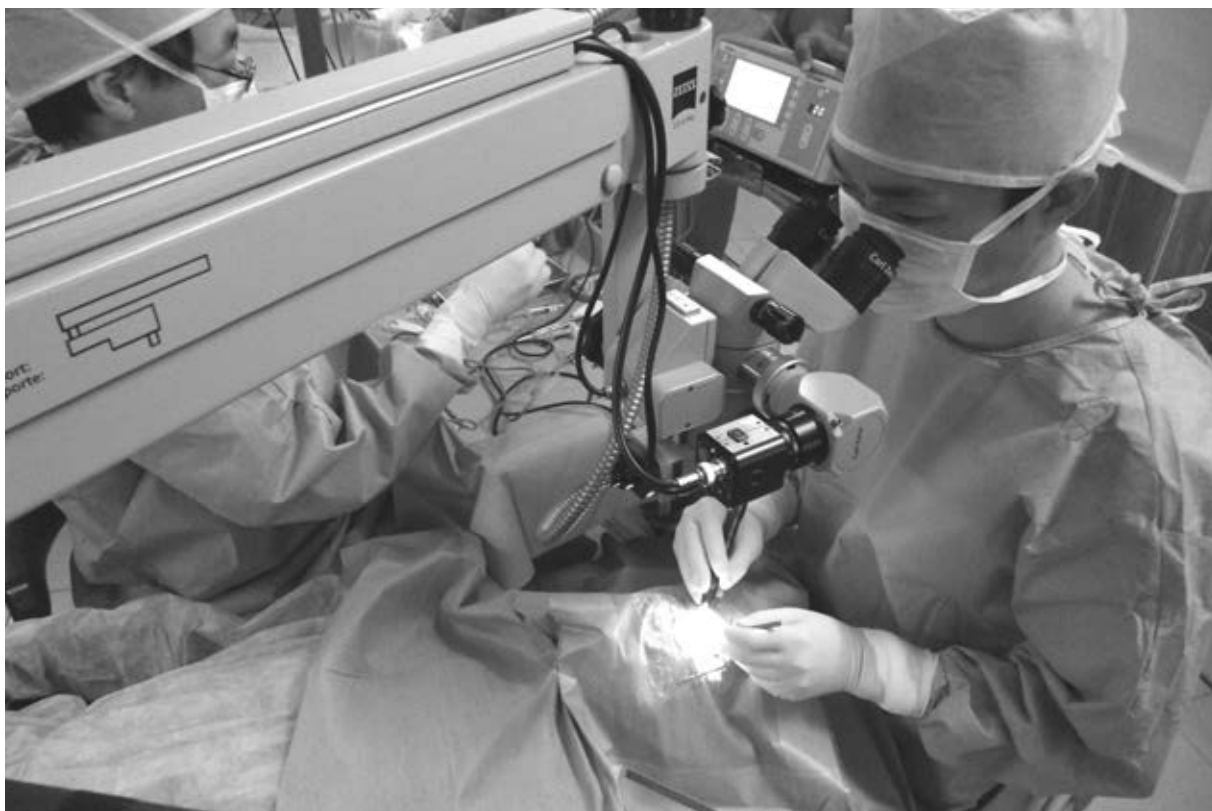
林眼科病院
瀧本 峰洋



今回のアイキャンプも手術に関してはトラブルなく順調に行うことができました。ただ中立的立場を持つ選挙管理内閣による総選挙を定めた憲法の条項を与党が撤廃し、これに反発した野党が抗議活動を繰り返したため、滞在時のバングラデシュは少し混乱しているようでした。交通機関がいつも通り運行されなかったため、残念ながら今回のアイキャンプで手術を受ける予定だった患者さ

んの中には来院できず不参加の方たちもいました。

しかし施設の中では子どもたちのきらきらとした瞳はいつも通り変わりなく、滞在中訪れた現地の市場でも昨年と同様活気に満ちあふれ政局の不安定さは微塵も感じられませんでした。早く政治情勢が安定し、多くの白内障患者さんが安心して手術を受けられるようになることを望みます。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプ2013年に参加して』

てるや眼科クリニック 視能訓練士

照屋 邦子



2013年のアイキャンプは前年も共に参加した次男(高校一年生)に加え、2013年は長男(大学生)、甥(教師)も参加させていただくことができました。私達を快く迎え入れて下さいました倉富先生をはじめアイキャンプのメンバーの皆様心から感謝申し上げます。

さて、私にとっては二度目のアイキャンプでしたが、現地の気温は前年よりも過ごしやすく、体調も万全で、活動においても緊張することなく、スムーズに動けたように思います。

今回は前年度に購入した旧式のオフサルモメーターは健在で、湿気の多い場所では今時の機械よりは電球さえ切れなければ使えるというシンプルな構造の物の方が長持ちするようです。また、今回、眼軸長を測定する時、機械の不具合ではないのですが、スムーズに測定できないケースがあり、前年度よりも過熟白内障の症例が多いという印象がありました。それから、今後できることなら、術前術後に視力を測定してみたいところですが、これに関しては、視標や測定方法、時間的なことが課題となりそうです。

また、今回は患者さんや現地スタッフの方々との触れ合いを楽しむ時間もありました。患者さんの寝泊まりしている宿舎、ホームの子供達の宿舎、教室、調理室へもおじゃまして談笑したりしました。帰る前日の午後は外出して市場へも連れて行っていただきました。復路にはリキシャにも乗せていただきました。リキシャとは日本でいう人

力車で大人二人を乗せて運転手同士が競い合うように一生懸命ペダルを漕いでくれる、舗装されていない道路は座っていても飛んだり跳ねたり、童心に返り、それはそれは楽しい経験でした。

このように前年にも増していろいろな体験をさせてもらい、国の違い、暮らしの違いを目の当たりにしながら、お互いが何処か共通点を見つけては共感し合う作業を自然に繰り返し、共有する時間を心から楽しんでいる子供達を見てみると、やっぱり今年も来てよかったと思いました。

それと同時にアイキャンプに限らず、私達大人は若い人達がもっともっと他国間との交流体験を通してお互いの違いを理解し、尊重し、共感し合えるコミュニケーション力を育てられるような機会をたくさん設けていく必要があると思います。このアイキャンプはバングラデシュの白内障患者さんの視力を回復させ、QOLを向上させるという本来の目的はもちろんのこと、若い人を育てるにも有意義な活動と実感しました。

このような貴重な機会を与えていただきましたエンゼル協会、POSAの活動を支えて下さっている皆様に深く感謝を申し上げます。また、倉富先生をはじめ井上先生、瀧本先生、田中さん、吉田さん、ひろなさん、アイキャンプの後半日程参加者の皆様たいへんお世話になりました。ご一緒出来て嬉しかったです。ありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』 くまもと森都総合病院 視能訓練士 吉田 幸代



私自身3回目となるPOSAバングラデシュアイキャンプに参加させて頂きました。くまもと森都総合病院の視能訓練士の吉田幸代です。

今回参加するにあたり過去2回を振り返ってみますと、前回までは自分に与えられた仕事を行うことに精一杯で、バングラデシュのスタッフや患者さん達とほとんど話をすることもなく、ただただ患者さんの目と検査結果のデータばかりを見ていたような気がします。またせっかく一緒にいたPOSAの皆様ともゆっくりお話もせず、夕食後はすぐに寝ていました。今回はこれまでの反省をふまえ、このプロジェクトに参加される方々とコミュニケーションをとりながら、検査や手術が円滑に行えるように手

助けすることを目指して参加しました。

アイキャンプは、経済的理由により白内障の手術が受けられない患者さん方が手術を受ける一年に1回きりの貴重な機会ですので、私たち参加者には時間と体力の許す限り多くの患者さんの手術をすることが求められています。しかし今回はバングラデシュでの選挙の影響で交通状態が悪く、アイキャンプに来ることができなかった患者さんが多くいらっしゃいました。そのため私達が滞在した前半3日間は比較的患者数が少なかったです。参加できなかった患者さんが沢山いらしたことは残念だったのですが、例年に比べると時間的に多少の余裕がありました。そこで空いた時間は患者さんやエンゼルハウス



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

の子供達、スタッフの皆さんと一緒に話をしたりして過ごすことができ楽しかったです。現地のスタッフの方々と一緒に市場まで買い物に出かける機会もあり、手術室の中にいるだけでは見ることのないバングラデシュの様子をみることができました。また過去2回は夕食が夜の10時頃になっていたのですが、今回は早めにとることができました。その後はPOSAの皆さんと雑談をして過ごしました。瀧本先生が外科に勤務されていた頃の貴重な臨床症例のお話などを聞くことができ大変勉強になりました。

国際エンゼル協会の前田さんともお話をすることがあり、私が「現地の職員の皆様の働きぶりはすばらしく感謝しています。どのようにしてバングラデシュの人たちとの信頼関係を築かれたのですか」と尋ねると、「一人だけが目立つようなことなく、皆で協力して歩調を合わせていくこと。問題が生じた時はしっかりと話し合うことです」とのことでした。

今回は少しだけではありますが、広い視野に立ってアイキャンプの活動を見ることができました。特に私が参加しているこの活動は、多くの方々が力を合わせ、知恵をしばって続けてこられたこと、またPOSAの活動にご賛同くださる多くの方々の支えがあって成り立っていることを改めて強く感じました。いつもご支援下さっている皆様に深く感謝いたします。最後になりましたが、今後もPOSAとこのプロジェクトにご協力いただいている全ての皆様が益々ご発展されますことを、心よりお祈りいたしています。

また、倉富先生はじめ一緒にアイキャンプに参加した皆様、お世話になりました。皆様とご一緒できて楽しかったです。私へ参加の機会を与えてくださり、快く送り出してくださったくまもと森都総合病院の皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』 沖縄県立大平特別支援学校 教員 喜納 鉄也



今回初めて参加させていただきました。きっかけは叔母である照屋邦子から「白内障手術の医療支援でバングラデシュに行くけど、参加してみない？」とのことでした。叔母からは以前からアイキャンプでの話をいろいろと伺っていて、私自身外国に興味があったので参加の誘いを受けた時はとてもワクワクしました。でも、実際のところ「医療従事者でもない私にそこで何ができるのだろう？」と少し不安を感じていました。

いざバングラデシュに到着すると空港に着くなり周辺を囲む人の多さに圧倒され、移動中は道路を走る車の多さやスリル満点のドライブに只々驚いてばかり、そして沿道にはたくさん商店が並び、バスの屋根に乗る人々、

多くの荷物を載せたりキシャが走り、遠くを見るとレンガを作る人、税金が掛からないように作りかけのままのビルが立ち並ぶ光景など、日本では見ることのできないことばかりでした。

バングラデシュについてはどうしても貧しい国というイメージが強く治安や衛生面、社会情勢など良い印象がありませんでしたが、そのこととは対照的にエンゼルホームの職員や子供たちがあたたかく出迎えてくれ、特に子供たちの明るい笑顔で活き活きとした表情がとても印象的だったことを強く覚えています。

さて肝心の活動について、初めのうちは白内障手術のボランティアはどんな仕事をするのだろうと期待と不安の



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

両方ありました。活動の記録(カメラ撮影)を中心に行うとは聞いていましたが、手の空いたときは医療に関して素人の私でも、手術中の患者さんの間近で手袋やレンズを手渡す手伝いをさせていただきました。手伝いをしながらすごく貴重な経験をしているという強い実感と手術室独特の緊張感に浸りながら充実した時間を過ごさせて頂きました。

手術の手法には日本とバングラデシュでは違いがあり、その理由にはその国の社会情勢が深く関係していることもわかりました。発展途上国の失明者の多くは貧困の要因が大きく、お金がない、病院に簡単に行けない、生活のために働き続けなければいけないなどの結果、病気の発見が遅れ失明に繋がり、この事からさらに国の医療費負担が増え益々病気の進行に拍車がかかってしまう現状を知りました。

医療はとても進歩しています。日本では当たり前に治る病気(白内障)に関わらず、国、生活環境の違いで医療、治療を受けることができないこの国の現状に私は深く考えさせられました。

バングラデシュへ行く前は「私に何ができるのだろうか?」と考えていましたが、活動に参加してみて感じたことは、できるできないではなく、まずやってみる、そして続けることが大切だと感じました。POSAの長年に渡るこの取り組みに少しでも携わることができてとても感謝しています。今回の貴重な経験を活かせるようにまた、多くの人に活動のことを知ってもらえるようにこれからの仕事に励みたいと思います。このような機会を頂き本当にありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』

くらとみ眼科医院 看護師

田中 清隆



今年は、12月19日から26日まで参加させていただきました。インドを含めると7回目のアイキャンプになりました。

空港から車で行く間、ぼろぼろのバスやリキシャを見ると、「また、バングラデシュに来たなあ」という思いです。毎年、日本から手術に必要な機材、薬品などをスーツケースに入れて持っていきます。準備はだいたい10月頃からはじめます。去年と同様今年も、スーツケース5個で100キロぐらいでした。インドの時は、段ボール20個ぐらいありましたので重量にすると400キロぐらいあったと思います。とても大変でした。

荷物はひとりでは、持っていけないので参加される方をお願いして、機内に持ち込める荷物だけにしてもらっています。毎年、参加者に感謝です。私の仕事は、国際エンゼル協会に着いたらすぐに明日の手術の準備をすることです。初めに手術器具の洗浄と滅菌や現地物品の在庫数と使用期限のチェックをします。滅菌は、オートクレ

イブが2台あるので、早く終わることができるようになり楽になりました。1台で滅菌していた時は、夜中の2時頃までかかり大変でした。日本から持ってきた物品は、十段ボックスに整理して入れていきます。来年のアイキャンプの為に在庫チェックを行います。今回は、器具の洗浄や在庫チェックを照屋さんはじめ参加者に手伝っていただいて早く終わることができました。

今年も、無事アイキャンプが終了しました。4日間の手術で103名の方が見えるようになりました。手術後の診察で喜んでる患者さんを見るとうれしく思い来てよかったと思う瞬間です。

もし、ボランティアへ参加しようか迷っている方がいれば、だまされたと思って、是非思いきって参加してもらいたいと思います。

最後に、素晴らしい機会を与えてくださった院長先生はじめスタッフの皆様に感謝しています。本当にありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『成長』

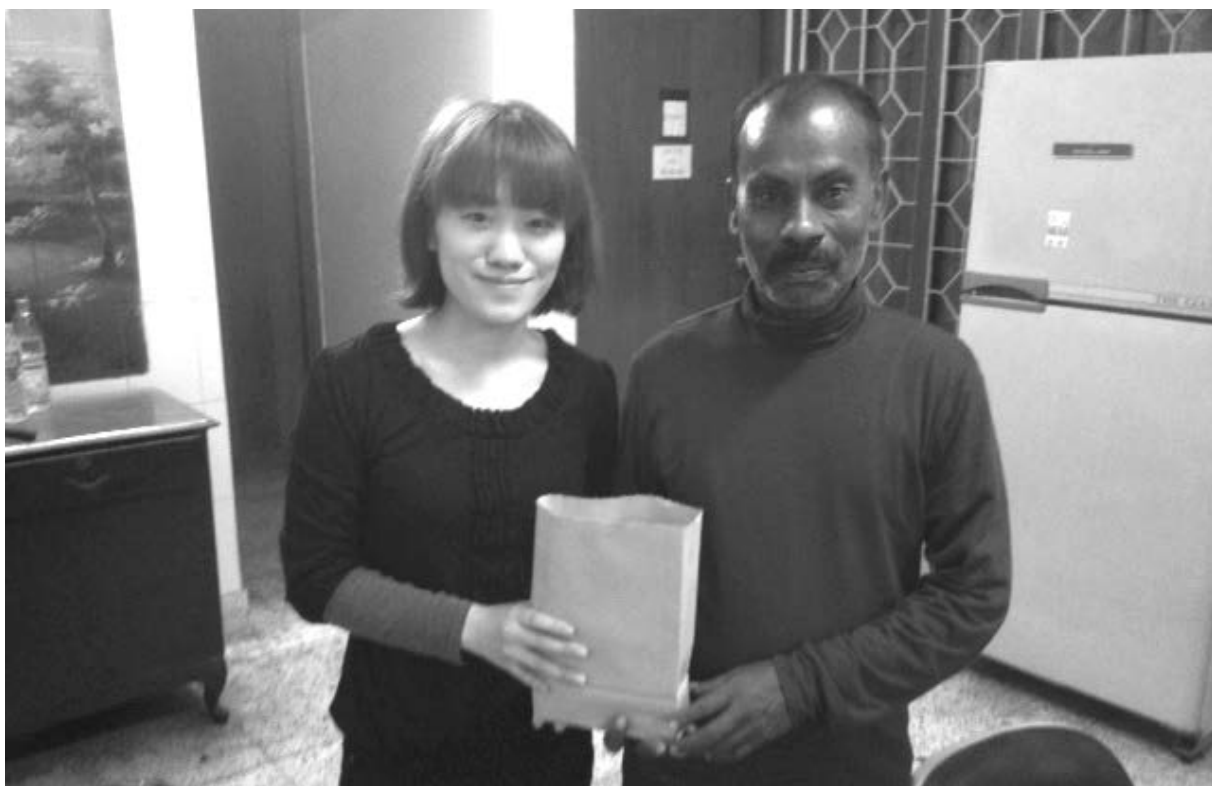
崇城大学薬学部3年

江崎 円香



初めてアイキャンプに参加させて頂いてから、今年で7年が経ちました。一般的に人々は大晦日のような一年の最後の締めくくる日に、その過ごした一年間を振り返ります。この一年自分は何をしてきたか、何か進歩はあったか、などと思いを馳せたり、反省をします。私は7年前から、大晦日ではなく、アイキャンプで過ごす1週間をそのような自分自身を見つめ直す時間にあてています。バン格拉デシュで一年を振り返ることは、勿論自分自身の成長や今後の課題、そして、エンゼルの子供たちの成長と一緒に振り返ることが出来る意味あるものです。今回のアイキャンプでは、特にエンゼルの子供たちの成長を視覚的に

も精神的にも最大に感じる事が出来た年でした。7年前当時、私の腰の丈しか身長が無かった子供たちが、今では皆私の身長を追い越してしまいました。また、毎年毎年変化していた子供たちの子供らしい将来の夢は、今ではしっかりと揺るぎない夢を見つけ、彼らの中で定まりつつあると感ずることが出来ました。自分の子供のように、弟妹のように愛おしく大切な子供たちが、日に日に成長してゆく姿を見て幸を感じることが出来ることは、毎年アイキャンプに御一緒に参加させて頂いているスタッフの皆様、現地のスタッフの方々、家族のお陰だと思っております。この場をお借り致しましてお礼を申し上げます。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』 福岡県立大学看護学部看護学科4年 富永 琴里



私は、このアイキャンプについて初めて知った時に、その趣旨に感銘を受け、ぜひ参加したいと思いました。そして、今回初めてアイキャンプに参加させていただき、とても充実した時間を過ごせたことに感謝いたします。後半からの参加ということもあり、本当にあつと言う間でしたが、アイキャンプを終えて、また参加したいと強く思いました。

私は、バングラデシュを訪れるのも初めてでしたので、驚きや発見が多々あり、わくわくの連続でした。現地に着いたら、その日の手術は終了していたので、エンゼルハウスの子どもたちと遊んで過ごしました。子どもたちはとても人懐っこく、初対面ということを感じさせないほどでした。子どもたちは、覚えた日本語を使って話しかけてくれ

て、積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれていることが伝わり、とても嬉しく思いました。白内障の手術はもちろんですが、現地の子どもたちとの交流も大変意義深いもので、子どもたちの純粋な笑顔が、アイキャンプを支える一つの要素となっているように感じました。

白内障の手術に関しては、その術前検査や手術、術後検査を見ることができて、また、関与させていただいて、とても貴重な経験をすることができました。私は、自分のすべきことで精一杯になっていましたが、後から振り返り、手術やその前後、手術室の内外、各場面や場所でそれぞれが役割を果たすことで成り立っていたのだ、ということに改めて感じ、アイキャンプに携わる人々の頼もしさに感動しました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

バングラデシュの人々とコミュニケーションですが、ベンガル語や日本語、英語の3つの言語が用いられていました。言葉の壁は大きく、私は自分の語学力のなさを痛感しました。しかし、非言語的コミュニケーションを用いながらお互いが通じ合えたと感じられる良い経験もできました。特に、手術後、目が見えるようになった患者さんの様子を見た時には、本当に良かったと心の底から思いました。周りを興味深そうに眺めている患者さん、「ありがとう」と私たちの手を握ってくれる患者さん、そういった患者さんたちの姿を見て、とても嬉しくなり、心にあたたかいものを感じました。

アイキャンプでは、倉富先生をはじめ、参加されたみなさまに本当にお世話になりました。おかげで本当に貴重な体験をさせていただくことができました。本当にありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『バングラデシュアイキャンプの思い出』

久留米大学医学部医学科1年

照屋 快斗



2013年POSAアイキャンプに参加させていただきました。私の父の大学時代の友人である井上先生からお誘いを受けて初めて参加することになりました。今回は実家沖縄から母、弟、従兄と一緒に参加することになり、彼らとは福岡で合流し、一行は福岡空港から先ずタイへ旅立ちました。タイではバングラデシュ行きの飛行機の乗り継ぎのためにバンコク市内で一泊しました。バンコクは楽しかった！ホテルは綺麗で、料理は美味しい、夜のショッピングモールはきらびやかで活気があるし、空港もすごく広い、僕はその時はもうほとんど旅行気分であかていました。

バンコクの空港でアイキャンプ前半組のメンバーが全員そろい、いよいよバングラデシュ行きの飛行機に乗りま

した。機内でうとうとしていると、「現地の気温26度」のアナウンスに目が覚めました。福岡で凍え死にそうにしていた僕にとってはガッツポーズものでした。「よし、とりあえず気温は適温!」、さて、飛行機を降り、ダッカの入国審査で割り込みやら、審査官同士の今必要かどうか分からぬ会話が終わるまで散々待たされ、ようやく入国。エンゼルハウスの方々に迎えていただき、宿舎まで向かう道中、雑踏の車、人、ごちゃごちゃ感、圧倒され続けて、世界は広いなあと頭の中でつぶやきながら、右の車窓から左の車窓、立て続けにカメラのシャッターを押していました。

カルチャーショックの洗礼を受けた後にたどり着いたエンゼルハウスは、穏やかで整えられた敷地の中で施設の子供達が1列にずらっと並んで迎えてくれて、僕ら一人



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

一人に手作りの花飾りを首にかけてくれました。ここに来るまでも驚きの連続でしたが、その時僕は、こんな風に歓迎されるなんて、先生方や他のベテランの参加者はともかく、僕はこれから始まる本番の活動で果たして役に立てるのだろうか、今まで旅行気分だったのが一転、不安になってきました。

しかし、そんな僕の気持ちを和らげてくれたのが、子供達の人懐っこい笑顔でした。言葉は全く分かりませんでしたが、友達になろう!と言っている様子はすぐに分かりました。ぼくは荷物を置いた後、すぐに子供達と一緒に遊んでいたところ、母がやって来て明日手術の予定の患者さんが到着していて、検査があるからすぐに集合するように言われました。

手術や検査が行われる施設に入りました。患者さんの多さにびっくりしました。これ全員診るのか?僕は患者さんに瞳孔を散大させる目薬をさして、散瞳した患者さんを順番に診察室へ案内しました。その間、さっき一緒に遊んだ子供達が英語や日本語を片言ながらも通訳をしてくれて、てきぱきと誘導してくれました。あどけない表情の子供達だが明らかに僕より賢い、素晴らしい。

検査が終わって手術室の準備も終わり、夕食を済ませると(ちなみに毎日3食カレー、だが、これがうまい!),寝るまでは自由時間となったのでまた子供達とバドミントンをして遊びました。僕は言葉の大切さ、伝わる楽しさを感じ子供達を通してベンガル語を学びました。子供達は皆いい先生! 始めのうちは覚えるのがとても大変で、何度もなんだっけ?って聞いても、嫌な顔ひとつせず何回も何回もゆっくり教えてくれました。

ひと通り遊び疲れて、部屋に戻り、シャワー、これがまた、温度調節の難易度S、「あつ!」とか「冷たっ!」とか、わちゃわちゃしながらなんとか体を洗って就寝しました。

翌日、午前から白内障手術が始まりました。これがまあ、先生方がかっこ良すぎて、外回り介助しながら見惚れていました。「やべえ、俺いつかこんなことするのか、

ありえんわ〜、帰ったら勉強しよう!」と思いました。

午後の手術の後は夕食をとり、翌日の患者さんの術前検査をして、夜の自由時間はまた子供達とのバドミントン、彼らはかなり上手いので真剣勝負になります。汗だくになり、また例のシャワーの後、その日もぐっすり眠りに落ちました。

帰る前日の午後は少し時間があつたので市場まで連れて行ってもらいました。日本人が珍しいのか、人がたくさん集まってきました。市場の帰りはリキシャに乗せてもらいました。「楽しい!」大興奮でした。

いよいよ帰る日、帰りたくなかった!その日も朝から出発ぎりぎりまで、後半日程で手術を受ける患者さんの術前検査、前日の術後患者の診察案内を済ませ、点眼薬の使用法の一斉説明会兼お別れ会に参加しました。僕は、感謝されました。言葉はわからなかったけど伝わってきました。感謝したいのはむしろ僕の方なのに…。めちゃくちゃ嬉しかった!こんな無力な人間でも少しは役に立てたかなと思うと、ちょっと泣けました。

「来年また来る」と仲良くなった二人の親友に約束しました。それなりに勉強もしましたが、お互いが親友であることをわかるのにもはや言葉はいらない気がしました。

バングラデシュを後にしてタイ経由で日本、福岡に戻る飛行機の中で水平線から昇る朝日を見ると、現実、日常がまた始まると思いました。そして、どうせまたこれから日常の中で勉強や部活、バイトに追われる日々が続くのだろうけど、頭のどこかでこのことを覚えておけるという事が、すごく嬉しいと思いました。あの国のあの場所で、あの人達が今も確かに生きている。嬉しい。頼もしい。

最後にこの機会を与えてくださった倉富先生、井上先生、瀧本先生をはじめとするアイキャンプスタッフの皆様、たいへんお世話になりました。とても楽しかったです。ありがとうございました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『私の成長』

福岡大学付属若葉高等学校 2年

小柳 博那



思えばアイキャンプの参加も4回目でした。私は来年大学受験を迎えます。なんとしてでもバングラデシュとの縁を切りたくないと思いました。そしてアイキャンプに参加したことを活かしたい。そう考えています。だから私は看護師になりたいです。アイキャンプに参加して人の役に立ちたいと強く思うようになりました。今まで当たり前のように毎日学校に行き、友だちと遊んで…。夢も何もなく私に大きな夢が見つかりました。これもアイキャンプに参加させてくれた両親、またPOSAの皆さんのお陰です。ありがとうございます。

私が今回バングラデシュに行って驚いたことは、みんな夢を持っているということです。今まで英語を話せなかったこともあり、みんなの夢を聞いたことがありませんでした。今も全然話せませんが、今回初めて夢を聞きました。医師、看護師、教師…たくさんありました。でも1番多

かったのはエンジニアでした。私はエンジニアと言われてもピンと来るものが思い浮かびませんでした。1人はパソコンのエンジニアになりたいと言っていました。エンジニアと言ってもたくさんあると思います。でもみんなそれぞれ夢を持っていてカッコいいと思いました。そしてある男の子が、大きくなったら日本に行く。と言ってくれました。私は本当に嬉しかったです。その夢を絶対に叶えて欲しいと思います。みんなが夢に向かって頑張っていると思うと私もやる気が出ます。今回夢を聞いてよかったです。

今まで4回参加したことを絶対に今後の人生に活かします。そしてもし5回目参加するのなら、もっと成長した自分で参加したいです。

たくさんの思い出をありがとうございました。そして参加させていただきありがとうございます。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプ2013』

沖縄尚学高校 1 年

照屋 秀斗



私は今回で、2回目のアイキャンプ参加になりました。1回目の昨年とは違い、今回は私の兄と従兄も参加させていただきました。

今回一番印象に残ったのは、エンゼルホームの近くにある市場に連れて行っていただいたことです。そこには山羊がさばかれてずらっつつるされている肉屋さん、たくさんのニワトリが籠の中にいて売られていて、またたくさんのカラフルな野菜など、本当にジブリのアニメに出てくるような市場の光景で、異次元の世界のようで、強烈な体験をすることができました。すごく心に残っています。

さて、活動の本拠地エンゼルホームですが、先ほどの市場の雑踏とは全く違ってゆったりとして心が休まるような場所です。子供達が皆ものすごく可愛くて、中には私の事を覚えていてくれる子供たちもいて、再会を喜び合いました。

手術室の中では、先生方が手術されている姿がとても格好良くて、先生方から為になる話や面白い話をたくさん聞かせてもらいました。本当にありがとうございました。

また日本の先生方とバングラデシュのミジャン先生の術式の違いなど看護師の田中さんに教えてもらったりし

て、とても勉強になりました。子供たちは、患者さんに通訳や誘導、いろいろな世話をしてくれて、本当に助かりました。

こうして昼間は手術のお手伝いであり遊べなかったのですが、夜になると腕が筋肉痛になるくらい毎晩バドミントンをしました。本当にとても楽しかったです。

私の兄が必死でベンガル語を覚えようとしていて、私もつられて覚えて話していました。やはり、言葉が少しでも通じるととてもうれしいですね！来年はもっとベンガル語を覚えて、もうちょっと会話できるようになりたいです。

エンゼルホームの子供たちは本当にかわいくて、目がとてもキラキラしていて、日本に連れて帰りたいくらいでした。来年はどれほど成長しているか楽しみです。その時覚えてくれているかな。けど来年、施設をでていく子供たちもいると思うと寂しいです。

今回も本当にたくさんの方々のおかげがあってアイキャンプ活動が成功し、無事に帰ってくることができました。お世話になりました。本当にありがとうございました。来年も参加したいと思っていますので、よろしくお願い致します。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



平成25年度事業報告



〈バングラデシュ眼科診察

及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル

エンゼルアソシエーション（IAA）本部

クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地助手

看護師 1 名

視能訓練士 2 名

一般参加 8 名

田中 清隆

吉田 幸代

江崎 円香

八木 隆明

照屋 快斗

照屋 秀斗

照屋 邦子

柴田 一馬

嘉納 鉄也

小柳 博那

富永 琴里

対象患者数：103名

〈バングラデシュアイキャンプの実施

及びビタミン配布〉

派遣期間：平成25年12月19日から平成25年12月26日まで

実施期間：平成25年12月19日から平成25年12月26日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル

エンゼルアソシエーション（IAA）本部

クリニック施設にて

派遣員：

眼科医 3 名

井上 望

倉富 彰秀

瀧本 峰洋

活動内容

今回バングラデシュアイキャンプも14回目となりました。現地の眼科疾患の症例及び912名の患者さんを対象としたスクリーニングアイキャンプ及び103名の白内障手術を実施しました。

国内啓発活動

バングラデシュアイキャンプへの寄贈品、募金、参加の呼びかけ

バングラデシュの現状についての啓発活動

平成25年度事業報告書

平成26年度事業計画

〈バングラデシュ眼科診察

及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル

エンゼルアソシエーション（IAA）本部

クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医師及び現地助手

〈バングラデシュアイキャンプの実施

及びビタミン配布〉

派遣期間：平成26年12月19日から平成26年12月26日まで

実施期間：平成26年12月19日から平成26年12月26日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル

エンゼルアソシエーション（IAA）本部

クリニック施設にて

派遣員：日本からの眼科医師及び看護師

現地眼科医及び現地助手

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



温かいご支援ありがとうございました。

平成25年4月～平成26年3月

敬称は省略させていただきます。(順不同)

紙面の都合上、掲載されていない方もおられます。ご了承ください。



寄 付 者

高濱 結樹
松本 アヤ
松本 いく子
小柳 衛
照屋 武
森岡 千鶴子
世戸 憲男
小田 英夫
南 泰三
橋本 彰二
若山 久栄
井上 香奈子
小森 啓範

神埼ライオンズクラブ
国際ライオンズクラブ

くらとみ眼科医院患者様御一同
菊池眼科患者様御一同

タオル 多伊良スナヲ
古賀 常木
城島 文芳
城島 芳子

眼鏡 森田美代野
古賀 淳子
小森 啓範
国際ソロブチミスト久留米

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



POSA理事・監事名簿



理事長	倉 富 彰 秀	(医療法人 輝秀会 理事長)
副理事長	井 上 望	(医療法人 菊池眼科 理事長)
理 事	橘 光 幸	(橘商事 代表)
	檀 本 純 一	(大坪内科医院)
	野 口 守	(萬永堂 代表)
	林 敢 為	(国際ライオンズクラブ 337-C地区 名誉顧問)
監 事	末 永 博 義	(末永司法書士事務所 代表)
	峰 悦 男	(峰公認会計士事務所 代表)

(敬称略・五十音順)

POSA名誉会員

名誉会員	古 川 康	(佐賀県知事)
	中 尾 清一郎	(佐賀新聞社長)

(敬称略・五十音順)

POSA一般会員

芥川 泰生	大島 博	高橋 良太	秀島 正博	山口 克宏
(株)アステム	(株)神埼薬局	瀧本 峰洋	福島 武	吉田 幸代
東 キヨ子	倉富 亜由美	田中 清隆	堀 秀行	与那嶺 豊
伊崎 祐介	財部 貴資男	田中 博都	松本 博	
井上 香奈子	柴田 一馬	田邊 樹郎	毛利 伊津子	
井上 麻記	杉戸 正和	照屋 邦子	(株)毛利工務店	
宇野 光次	世戸 憲男	富永 琴里	森岡 千鶴子	
江崎 円香	参天製薬(株)	(株)日本点眼	八木 隆明	
江原 信子	高橋 雄二	原 康夫	安谷 久美子	

(敬称略・五十音順)

POSA (ポサ) 規約 (一部抜粋)

(目的)

第3条 本会は、眼科衛生学に関する知識の普及及び白内障・緑内障に対する研究・ボランティア活動を行い、視覚障害者の減少に寄与することを目的とする。

(入会金及び会費)

第7条 正会員は、入会金壹万円、及び年会費壹万円を納入しなければならない。

POSA一般会員入会を随時受け付けております。ご連絡下さい。(POSA事務局 田中)

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



Project Operation Sight for All

POSA 事務局

〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ケ里2435-1

医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院

TEL : 0952-52-8841 FAX : 0952-52-8765

ホームページアドレス <http://www.posaoffice.net/>

E-mailアドレス posa@train.ocn.ne.jp

2014年6月発行